

5か年計画の4年間の実施状況

資料3参考1

年度	回	実施内容	評価検証委員会からの主な助言等	次年度展開
平成30	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 5か年計画の説明 ● 今年度の取組の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市教委及び学校に対する批判的なパートナーとして、専門的立場から厳しい指摘を行う ● P D C A サイクルを回して、5年間でよりよい計画へ昇華させる ● 最終的にはいじめ防止対策から、よりよい学校経営、学級経営の実現を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの権利条約の6、12条の内容を計画に記載 ● いじめの正確な認知の推進 ● 生徒会・児童会代表者ミーティングの参観等を実施 ● スクールソーシャルワーカーの全中学校区への配置
	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 1学期の取組の報告 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの主体的な取組につなげる ● 普段の子どもと違う面に気付くことが大切である ● 成功事例を全学校と共有する 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 2学期の取組の報告 ● 次年度計画案の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒会・児童会代表者ミーティングの参観を希望する ● 取組プロセスの具体例を示してほしい ● 子どもの権利条約の6、12条を計画に盛り込んでほしい ● 市教委の取組を外部へ発信してはどうか ● 「活動プロセス」「活動成果」「具体的事例」「現場」の見える化に留意してほしい 	
令和元	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 前年度3学期の取組の報告 ● 前年度年間の評価の説明 ● 今年度の計画及び取組の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ● いじめ防止に向けて、より効果的・効率的な方策を追求していく ● いじめ認知プロセスを大切にしてほしい ● 子どもの権利条約を学ぶ機会や教員研修に取り入れてほしい ● 加害側児童生徒への支援や手立てが重要である 	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能ないじめ防止対策の構築 ● 学校支援に向けてアセスのマークシート方式の導入 ● 学校支援カウンセラーの対応日数拡充（平日の午後） ● 児童生徒のSOSの早期発見・早期対応に向けてネットパトロールの実施
	視察	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒会・児童会代表者ミーティング ● いじめ防止市民フォーラム 		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 1学期の取組の報告 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒会・児童会代表者ミーティングの取組を子どもたちが学校に広めることが大切である ● いじめを受けた子どもの傷の深さに寄り添った対応が必要である ● アセスの非侵害的関係の数値の低い児童生徒への対応の検討が必要である ● 子ども同士が支え合うことができることが大切である ● 実践を学び合う機会や実践を交流し合う機会を設けてはどうか 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ● 2学期の取組の報告 ● 次年度計画案の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ● 加害側・被害側の心を成長させていくことが大切である ● いじめを訴える力、仲裁者を育てる視点で関わってほしい ● 発達段階や個人の特性を考慮した対応をしてほしい 		
令和2	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 前年度3学期の取組の報告 ● 前年度年間の評価の説明 ● 今年度の計画及び取組の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ● 顕在化した課題を報告してほしい ● 対応事例を紹介してほしい ● 事務の効率化を目指しスクラップ&ビルドが必要である ● いじめの定義を保護者へ周知してほしい ● ケース会議の意義について検討すべきである ● 学校の課題を学校管理者等へ直接聞いてみたい ● いじめ防止対策の枠組みを越えて、子どもの権利条約を踏まえた計画が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校運営協議会との連携による活動の推進 ● 学校外施設とのいじめ防止対策の連携 ● 子ども向け相談行動促進（自殺予防教育）の充実 ● 学校支援ソーシャルワーカー（社会福祉士）の配置
	視察	<ul style="list-style-type: none"> ● 相談行動促進研修会 		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 1学期の取組の報告 ● 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う児童生徒へのサポート体制 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員と児童生徒が語り合える雰囲気醸成に努めてほしい ● スクールカウンセラーとの連携増やすための予算措置を検討してほしい ● アセスの非侵害的関係の値に注目して対応していることは評価できる ● 教師と児童生徒が向き合える時間の確保のため、行事や事業の精選に取り組む必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットいじめ、子どものSOSやトラブルの未然防止、早期発見・早期対応の推進

3	<ul style="list-style-type: none"> ● 2学期の取組の報告 ● 次年度計画案の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ● いじめの認知を高めていく視点、施策が大切である ● 取組状況の量的分析が多いため、質的分析の視点を入れてほしい ● 人権や命を尊重する豊かな心を育むため、子ども、保護者、教職員と一緒に考える必要がある ● 5か年計画の理念や思想を確認することが大切である
---	--	--

年度	回	実施内容	評価検証委員会からの主な助言等	次年度展開
令和3	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 前年度3学期の取組の報告 ● 前年度年間の評価の説明 ● 今年度の計画及び取組の説明 	<ul style="list-style-type: none"> ● スクールソーシャルワーカーの力量の差を埋める手立てを検討していただきたい ● いじめと不登校の関係においてデータをとり検証いただきたい ● いじめの認知過程について事例を明確にし教訓化できるデータにしていただきたい ● 学校評価において関係者からの評価徹底とP D C Aサイクルの確認が必要である ● 子どもの権利条約が5か年計画に反映されており評価できる ● 学校対応事例を質的分析するため、非公開での評価検証委員会の実施を検討いただきたい 	<p>《令和4年度の展開案》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いじめの正確かつ積極的認知の推進 ● スクールサポートチームの体制強化による学校支援の推進 ● 相談行動促進（自殺予防教育）の充実 ● 子どもの居場所の拡充
	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 1学期の取組の報告 ● 学校での対応事例（非公開） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 校則の意義を生徒自身が積極的に考えることは重要で教師が舵取りしていただきたい ● これまでの関係機関との連携状況をデータで示してほしい ● 児童会・生徒会から出た意見を各学校でも広げていく視点が大切である ● いじめが認知されないことが一番危険なため積極的認知を推進いただきたい 	<p>（注）令和3年度第3回評価検証委員会（2/14）で協議</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 2学期の取組の報告 ● 次年度計画案の説明 	<p><令和4年2月14日開催></p>	